

【コード進行の歩き方】

～無限の展開アイデアを手に入れる音楽理論の旅～(仮)

【目次】

(1) 旅の準備

コード進行アイデアの基礎として、ダイアトニックコードのみを使ったコード進行の考え方を解説します。

基本的な内容ですが、この章を理解しないとその後続く章の内容が理解できないので、必須の知識です。

1. 旅の出発点：ダイアトニックコード

曲作りの基本になるダイアトニックコードについて確認します。

2. 旅の指南役：循環コード

曲作りの根幹として用いられることが多い循環コードについて学びます。

3. 仲間たちの個性を知る：3つの基本展開

ダイアトニックコードの進行でよく使われる以下の3つのコード進行の使い方を解説します。

- ・ドミナントモーション
- ・スケールトーンモーション
- ・ファンクショナルモーション

(2) いつもの景色から足を伸ばす

ここからは、ダイアトニックコード以外のコードを使ったコード進行の考え方を学びます。まずは基本的な以下の3つを解説します。

1. 後ろ方向に広げる：II-V

循環コードなどに挿入することでコード進行の幅を一気に広げることのできるII-V（ツーファイブ）とそれに関係する以下の3つのテクニックを解説します。

- ・セカンダリードミナント
- ・リレイテッド2
- ・サブドミナント

2. さらに後ろ方向に広げる：エクステンデッドドミナント

II-Vを応用してさらにコード進行を拡張する考え方を学びます。

3. 意外な到達地：デセプティブモーション

意外性を演出できるコード進行テクニック。特にコード進行の終わりに使うと効果的です。

(3) 親戚を訪ねて

ダイアトニックコードを離れ、異なるキーからのコードを用いるテクニックについて解説します。

1. 従兄弟たち：近親調

異なるキーからのコード借用の基礎知識として、近親調について説明します。

2. 持ちつ持たれつ：借用コード

近親調からコードを借用してくることによって、コード進行の彩りを豊かにする方法を学びます。

(4) お隣の国へ

ここまではダイアトニックコード＝メジャーハーモニーを中心に学習してきましたが、この章ではマイナーハーモニーを学びます。

マイナーハーモニーによって微妙なニュアンスを表現することができるようになります。

1. 妖艶の国：3つのマイナーハーモニー

マイナーハーモニーは基本として以下の3つの種類があります。
これを学ぶことでコードの選択肢が単純計算で一気に3倍に増えます。

- ・ナチュラルマイナー
- ・ハーモニックマイナー
- ・メロディックマイナー

2. 踊る踊る：ドリアンスケール

マイナーハーモニーのバリエーションとしてドリアンスケールを解説します。
独自の雰囲気を持ったハーモニーで、特定のジャンルを表現したいときに使えるコード進行です。

(5) 未知の世界へ踏み出す

ここからは中級以上のコード進行テクニックになります。
ダイアトニックコードの世界を離れて全く違う考え方のハーモニーの世界に足を踏み入れます。楽曲の個性を演出するのに非常に有効なテクニックが満載です。

1. 個性派たちの饗宴：ノンダイアトニックコード

ダイアトニックコードの考え方を元にしらない=ノンダイアトニックなコード進行テクニックをご紹介します。以下のようなコードテクニックの使い方を説明します。

- ・ディミニッシュコード
- ・オーギュメントコード
- ・サスコードと4度堆積
- ・スラッシュコード
- ・ペダルポイント

2. 故郷の記憶：ブルース

ノンダイアトニックでありながら非常によく使われているコード進行、ブルースの進行について詳しく学びます。

3. 縦から横へ：ヴォイスリード的発想

コードを考えるときは、何の音を同時に鳴らすかを考えるのが普通ですが、この項では前に鳴らした音や次に鳴らす音とのつながりからコード進行を考える発想法について解説します。

このテクニックを手に入れることで、音楽の流れを意識した、より表現豊かなコード進行のアイデアを考えられるようになります。

- ・ベースモーション
- ・メロディインターバル

4. Jazzからの使者：モード的発想

ジャズのテクニックから発展したモードの理論を、コード進行の中に取り入れる考え方について解説します。

7つのモードの特徴を取り入れることによって、メジャーとマイナー以外のより繊細な雰囲気のコード進行を作れるようになります。

(6) ときには歩幅を変えてみる

この章では、コード進行とリズムについて考えます。

何のコードを鳴らすかだけでなく、どんなタイミング鳴らすかまで考えることで、楽曲の表情が一気に豊かになることがわかります。

1. ずらしの快感：ハーモニックリズム・ストップタイム

(7) 帰還

最後にまとめとして、今までに手に入れたコード進行のテクニックを実際の曲作りに活かす際の考え方や心構えについて説明します。

1. 目的は人生・旅は手段：コード理論の楽曲への使い方

※上記の内容は、より役立つ講座にするため、アンケートの結果を元に変更する場合があります。